

P=ポイント

国 内		県 内	
1日	9月日銀短観 大企業製造業の景況感、横ばい 日銀の全国企業短期経済観測調査(短観)で、大企業製造業の景況感を示す業況判断指数(DI)は、前回6月調査から横ばいのプラス13。電気機械が10P改善し、プラス11となった。	1日	県内景気「緩やかに回復」 日銀宮崎事務所は県内金融経済概況で、全体の景気判断を「緩やかに回復している」と据え置き。個人消費、観光ともに前回発表(9月)を維持し「緩やかに回復している」とした。
2日	総務省、携帯電話で「060」開放へ 番号不足解消狙う 総務省は携帯電話で「060」から始まる電話番号を使えるよう検討を開始。利用可能な番号を増やす狙いがあり、情報通信行政・郵政行政審議会での答申を経て年内にも関係省令を改正予定。	1日	県内求人倍率、1.31倍 宮崎労働局によると、8月の県内有効求人倍率(季節調整値)は前月から0.02P上昇し、1.31倍だった。求人が求職を上回る状況が続いているが、同局は「物価上昇などの影響にも注視が必要」としている。
8日	8月の経常黒字、3兆8,036億円で過去最大 8月の国際収支統計(速報)で、モノやサービスなど海外との取引状況を示す経常収支は、3兆8,036億円の黒字。経常収支の黒字額は比較可能な1985年以降で単月として過去最大。	2日	宮崎空港で不発弾爆発 87便欠航 宮崎空港で滑走路と駐機場をつなぐ誘導路で不発弾が爆発。爆発現場は陥没し、滑走路は11時間以上にわたり閉鎖。航空各社によると、87便が欠航、5,000人超に影響が出た。
8日	9月の街角景気、4カ月ぶり悪化 9月の景気ウォッチャー調査(街角景気)で、現状判断指数(DI、季節調整値)は前月比1.2P低下の47.8となり4カ月ぶりの低下。基調判断は「緩やかに回復基調が続いている」と2カ月連続で維持。	5日	本県最低賃金952円に 宮崎労働局は、本県の最低賃金を5日から、時給952円に引き上げた。引き上げ額は過去最大の55円となり、県内で働く全ての労働者に適用される。
16日	訪日消費額、過去最高 1~9月で5.8兆円 観光庁は、訪日外国人による消費額(速報値)が1~9月の累計で5兆8,582億円に達したと発表。昨年1年間の累計5兆3,065億円を上回り、早くも年間最高額を更新。	8日	宮崎、大阪3港利用拡大へ パートナーシップ港提携 県土整備部と大阪港湾局は、細島港(日向市)、宮崎港(宮崎市)と、堺泉北港(大阪府堺市)の3港の利用拡大に向け、パートナーシップ港提携に関する覚書を締結。更なる関係強化を図る。
17日	4~9月の貿易赤字3.1兆円 円安進行で14%拡大 2024年度上半期(4~9月)の貿易統計速報で、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は3兆1,067億円の赤字。円安進行を背景に電算機類や医薬品の輸入額が増え、赤字幅は前年同期比14.4%拡大。	11日	本県普通水稻「平年並み」見込み 九州農政局 九州農政局は、2024年産水稻の作柄概況(9月25日現在)を公表。本県の普通期水稻の作況指数は「平年並み」の99を見込み、早期水稻は「やや不良」の98だった。
18日	9月の消費者物価、2.4%上昇 5カ月ぶり伸び率縮小 9月の消費者物価指数(CPI、2020年=100)は、変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が108.2で、前年同月比2.4%上昇となり5カ月ぶりに伸び率が縮小。政府による電気・ガス代補助が寄与。	12日	「海幸山幸」15周年記念出発式 JR九州の観光特急「海幸山幸」が運航開始から15周年を迎えた。記念の出発式、セレモニーが宮崎市の宮崎駅で開催され、同社や沿線自治体の関係者、ファンが節目を祝った。
29日	9月の有効求人倍率、1.24倍に上昇 9月の有効求人倍率(季節調整値)は1.24倍で前月から0.01P上昇。インパウンドの増加で宿泊・飲食サービス業の新規求人が伸びた一方、生活関連サービス・娯楽業で雇用を控える動きがあった。	25日	10月1日時点 本県人口801人減少 本県の10月1日時点の推計人口は103万361人で、前月比801人減少、前年同月比では1万350人減少。市町村別の前年同月比では、都城市が唯一増加した。